

## 平成30年度第2回社会教育委員会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年11月26日(月) 18:30～20:00
- 2 開催場所 新居浜市役所庁舎3階 応接会議室
- 3 出席者 《委員》 安藤進一委員、小笠原忠彦委員、加藤すみれ委員、久保弥生委員、  
篠原雅士委員、永井和弘委員、秦榮子委員、日野幸彦委員、  
藤田誠一委員、藤本毅委員、渡邊誠一委員、渡邊大輔委員  
(計12名)  
《市教委》 関教育長、加藤事務局長、高橋課長、上野主幹、高田係長
- 4 欠席者 《委員》 三木悠司委員、山内保生委員、渡邊郁雄委員(計3名)
- 5 教育長挨拶

### 6 議事

#### (1) 成人式について

《資料に基づき、事務局説明》

①前回ご指摘いただいた新居浜市の成人式の出席率が低い理由、検証

②東予地区の他市の状況のヒアリング結果

会場：四国中央市は4会場(いずれも公共施設)

西条市は2会場(いずれも公共施設)

今治市は9会場(7会場は公共施設、2会場は民間施設、うち旧今治市は民間ホテル)

アトラクションの実施：3市とも地域の太鼓の演奏あり

記念品の配布：四国中央市は製紙会社から全員に紙製品の無料提供あり

西条市は昨年までは式典当日の写真をアルバムにして後日配布

今治市は今治タオルのセットを配布

⇒会場について、本市の場合、市民文化センターの前に一定の広さのある駐車場がある。同じ公共施設でも、入口付近の条件の違い等があるかと思うが、そういった状況の中で、本市の成人式の出席率が低いこととの因果関係については、残念ながらヒアリングの中ではご報告できるものまでは至っていない。今後の成人式のあり方の中で、皆さんのご意見をいただきながら検討を深めていければと考えている。

③平成31年成人式への委員の出席依頼について

前回の会議の中で、1月13日に開催予定の平成31年成人式への社会教育委員の出席につ

いてお願いしたところ、出席いただけることとなった。会場のレイアウトとして、今回提示させていただく。

⇒了承を得る。

#### ④平成30年1月開催の前回成人式のDVD視聴

「式次第」のコピー配布

(藤本委員)

若い人はこれを見て成人式に来たいと思うのか。なかなか難しいのではないか。成人式であるので、人生の先輩が大人の仲間入りをした人達を祝う。あるいは大人とはこういうものだという事をこの式典をもって示すという意義があるということは十分理解する。とは言っても、どうしても固い印象で、この中身を分かっているとロビーより中に入って来ない人もいるという事は、気持ち的にはそうなのかなという感じがした。東予の他の3市で太鼓演奏を行っているとのことであるが、逆にそこを除くと式典の中身は概ねこういう内容か。

(事務局)

式典については、ほぼ同じ形態である。

(藤本委員)

もう少し視野を広げて、松山市は校区単位で開催している。手作り感がある、顔が見えるやり方で、親しみを持って参加してもらえると理解している。他の市町の取組みで、参考になるところがあれば、来年については時期的なことがあるが、将来的な課題として検討してはどうかと感じた。

(教育長)

新居浜でも船木校区では以前から地域の方が地域の子どもを祝うということで、地域独自の成人式を1月3日に開催しているが、地域の方とのつながりが子ども達にとっても、うれしいものになっていると伺っている。

松山市は中学校区で開催の分散型であり、地域の方、学校の先生も交えて取り組んでおられる。一か所に集めるというのは松山市の場合は困難であり、分散形式を採ったと伺っている。本市でも以前から分散開催について話が上がっており、今後ぜひ、皆さんのご意見をお聞きしながら考えていければと思う。時期についても、お盆に開催している地区もある。本市でも過去にお盆開催を検討したこともあるが、着物業者との関係もあり、進まなかった。

(日野副議長)

多喜浜校区では中学校2年生を対象に「少年式」を開催しており、全員参加である。分散開催も一つの方法と考える。今後、真剣に考えないといけない。

事務局にお尋ねしたい。今治市ではタオルを渡しているとのことであるが、本市は全く無い。その辺りもあるのかなと思うが、どうか。

(事務局)

予算の伴う事でもあるが、ご意見として検討させていただきたい。

(教育長)

過去にはアルバムやテレホンカードを渡していたが、悲しいかな、アルバムでも会場に捨て

る新成人がいた。あれを見て、これで良いのかという話になり、その後止めてしまったという経緯がある。他の記念品も場合によってはあるのかなという気もする。この辺りも議論していただければありがたい。

(藤田委員)

長男が3年前に成人式で、次男は来年成人式を迎えるが、大学生であり、成人式は地元に戻り、ちゃんとけじめを付けなさいということで、来年の新居浜市の成人式を楽しみにしている親子である。例えば、地元の後輩の吹奏楽で出迎えるとか、ビンゴ大会で入場5分前でないとカードを渡さない、また賞品で新居浜の物産が当たるとか、入場を促す意味で催し物を行ってはどうか。後輩・先輩でもよいので、地域が君達を祝っていますという事があって、演奏が終われば、「おめでとうございます。どうぞ中に入ってください。」と、例えば高校生が言えば、そこで騒ぎ立てるのであれば、大人が促してあげる等、賞品や地域の皆様の応援で、何とか入場させる。後はこの委員で催し物を考えてはどうか。楽しみにしている家族もいるので、ぜひお願いしたい。

(渡邊誠一委員)

式次第を拝見し、面白みのない成人式であるというのが率直な気持ちである。私であれば、午前中は各中学校区で恩師との交流を交えながら、お昼を挟んで、夕方位の時間帯に記念式典を開催し、せっかく着付けをしているので、30分や1時間では終わらないようにする。午前中は地元に戻って顔見せし、午後は式典を行う、そのような作り方をすればどうかと思っている。物であれば捨てられてしまうが、恩師の顔は見たいという方は多いのではないかと。一肌脱いでいただいて、「この中学校にあの先生がいるらしいよ。」「行ってみようか。」といったものを午前中に組み込めば、うれしく、成人の晴れ姿を恩師に見ていただきたいという気持ちはあるのではないかと。何か叶えてあげたいと思う。

(篠原委員)

私は船木校区であるが、私たちが初めてであった。その印象は強く残っている。先生をお迎えし、ほとんど全員が集まったのではないと思う。今、子どもたちも娘、息子がいるが、すごく良かったということで、報告がある。校区でやるというのも一理あると思うし、そちらから文化センターに移ると、かなり充実した、礼儀もわきまえての出席となる可能性は増えるように思う。

(秦議長)

たくさんの貴重なご意見いただいた。とにかく成人式には楽しんで参加していただくというような気持ちで、賞品なり恩師と話し合うとか、工夫をしていただいて、今後の課題としてご検討願いたい。

(日野副議長)

社会教育委員は全員出席するということか。

(事務局)

皆様のご都合はお伺いするが、皆様にご案内させていただく。委員さんには壇上に上がっていただきたい。

(教育長)

(会場レイアウト図の案をご覧いただきたいが、) 立ち位置として、副議長の場合は、前回までは連合自治会長として舞台の正面向かって右側にいらしたが、今回は反対側になる。社会教育委員としての出席ということになる。

(事務局)

成人式を壇上からご覧いただき、更にご意見をいただければと考えている。

(教育長)

来年度以降の成人式を考えるにあたり、若い人たちの意見を聞くべきと考える。アンケートを取ってほしい。

(秦議長)

それは良いと思う。これまで取ったことはないのか。

(教育長)

無いようである。

(秦議長)

いろいろアイデアを出しながら検討を進めて行くよう、よろしくお願ひしたい。

## (2) これからの公民館のあり方について

《資料に基づき、事務局説明》

(久保委員)

公民館に勤務している者として、ご意見をお聞かせいただきたい。教育長のご説明をお聞きし、公民館は今から大変である。果たしてどんな方向で進めて、どうすればよいか、というのが正直な気持ちである。現在の体制は、非常勤職員3人であるが、地域の核となり引っ張っていくとなれば、今の体制では無理なのではないかという気持ちもある。以前のように正規職員が来るかどうかは分からないが、職員が責任を持って、また意気に感じて、できるような環境作りが大切である。館長としても、できるかどうか自信は無い。

(教育長)

若宮小学校は昨年度いろいろ議論し、閉校ということになったが、その後公民館は残っている。そこで行われている公民館活動というのは、以前より盛り上がっていると、先日の文化祭を拝見して思った。子どもに対しての思い、というのは逆に強まり、参加する子どもも増えていたのではないか。

(久保委員)

閉校してから地域が寂しくなるのは、地域としても辛い。これからも学校の統廃合はあるかもしれないが、若宮が一つの例になると思うので、良い例にしていきたい、地域は一丸となり、他に示すことができるような文化祭にしていこうと、皆さん頑張っていた。この点は非常にありがたかった。準備は大変であった。

(教育長)

地域の方が、自分たちで担えるような仕組みを作っていこうということが、一番のコアな部分かもしれない。これまでは受益者、やっていただいて受ける側という発想が強かったが、できれば自分たちで自分たちの地域を作っていこうという雰囲気をもどれだけ公民館で盛り上げていけるか、学ぶだけの場でなく、学んだことを発揮していけるような場づくりは大事である。30年の流れがある。

(久保委員)

それに慣れてしまっているという所があるので、いかにくさびを打つかというのは、かなり勇気が必要になってくる

(教育長)

それができるのは、平成から新しい時代へ移る今しかないと考える。

(事務局)

ご意見が出しづらいようであり、前回資料の47ページに今後の目指すべき方向性として6項目あり、この辺りにターゲットを絞りながらご意見をお聞かせいただきたい。

(小笠原委員)

コミュニティ・スクールを実施していくうえで、公民館は無くてはならない存在で、地域学習の拠点となるということで、公民館はありがたい存在である。宮西校区と新居浜校区の文化祭に出させていただいたが、小中学校の保護者層があまり参加してくれていない。バザー等は参加いただいているが、運営等にはあまり携わっていない。片付けするとなると、地域のお年寄りの方か、今年は中学生も行かせたので、中学生が中心となっていた。間の層がごそっと抜けており、保護者層、30～40歳代の方を取り込んでいく仕掛けを作ると、ずっと続いていくのではないか。愛媛県社会教育研究大会の資料に、垣生小学校において、コミュニティ・スクールの指定校になり効果が出たという部分で、「PTAも地域との連携等、協働活動に積極的に参加するようになり、地域の方からの信頼も厚くなった。」とあり、PTAも公民館活動に入ってきた、コミュニティ・スクールを始めることで連携が進んだということになっている。保護者層、PTA層を狙った仕掛け、あるいは高校生といった、今は余り活用していない世代を狙った仕掛けが必要と考える。

(渡邊誠一委員)

PTA役員の方の話として、公民館は遠い存在である。何かをやらされるのではないか、行けば用事ができてしまうのではないか、ということをよく聞く。それは間違っていると思う。子どもの時、母親が何かPTAの役をすると、地域デビューのような気がしていたように思う。子どもが来ない、親が来ないと言われていたが、今は共働き家庭がほとんどで、育児休暇等も有り、妊婦さんも来やすい勉強会、子育てはこうやってやるものであるとか、おばあちゃんの知恵とか、そのようなものをまず始めてみて、門を広く取って、それから十年、二十年かかるであると思うが、公民館に行けば子育て支援してくれる、困った際の相談所であるという考え、地域の愛情が植え付けられていくと思う。

PTAの前にまず公民館で馴染んでいただいて、「この子は赤ちゃんの時に公民館でお世話になったので、PTAでご奉仕しないと。」という気持ちにさせるような進め方が良いのではと思う。

(久保委員)

今年の若宮地区の文化祭では、いろんな所に手を広げた。PTAの方がいないので、惣開小学校の若宮地区に住んでいる保護者に、何かお手伝いしていただけないか、アンケートを行った。何時から何時までと、時間も書いていただき、きめ細かい内容のものを作成したところ、1時間だけでもよいか、前日の野菜切りだけでもよいかというような、想像以上の協力があつた。投げ掛ければ、公民館の方、地域の方も向いてくださる。教育長が、子どもがたくさん来ていたと

おっしゃっていたが、今年はPTAの方が、子どもたちが楽しめる催し物を企画・運営して下さった。今のPTAの方が、子どもは何をすれば楽しいか、どんな事をすれば子どもが寄って来るかということを考えて下さったこともあり、多くの子どもさんが来た。南高生のボランティアもお願いしたり、中学生にもお手伝いをお願いした。当日に駅伝大会もあり、なかなかできない部分もあったが、ある部の何人かがお手伝いしますということで、来て下さった。いろいろ広げていく、手段を考えることは大切である。もう一つは地域の人材活用、いろんな方に助けていただくには、いろんな所にアンテナを張ることも大切で、ちょっとお願いしますと言うと、「いいよ。」と快く言って下さった。お正月に書初め大会を行う予定であり、惣開小学校児童全員にプリントを配布したが、結構惣開のお子さんも参加してくれる。皆さんに喜んでいただく、公民館に来ていただくような方法を模索していかないと、今までどおりの行事をこなしていただくだけではだめであるという気持ちはある。

(永井委員)

垣生小に今年度赴任したが、前任校長と公民館長が、コミュニティ・スクールの立ち上げに仕組みを作ってく下さったおかげで、スムーズに運営させていただいている。先程、PTAが話題に出たが、垣生小学校では今年の文化祭の準備・片付けにPTAの方に多く来ていただき、地域の方が、例年より準備、片付けがスムーズにできたと反省会で出されていたことが印象に残っている。そのような形で、コミュニティ・スクールを中心に、公民館と一緒に活動させていただければと思っている。

(安藤委員)

前回の会議で「SDGs」について教育長がご説明され、膨大な内容になってくるのではないかという指摘をさせていただいたが、今日の話しを聞いていて、その点は心得ておられる。今後、地域課題に沿った具体的なテーマづくりをされていくということで、了解させていただき、安心した。

48ページに、これから公民館が担っていく機能として、ラーニングアクション、アクティブラーニングという言葉が出てきている。これは、文科省の大学局で推進している内容ではないかと思う。新居浜高専においても積極的に取り組もうとしているが、日本の教育も与えられる方の学習ということが根についており、グループ学習、グループ研究の発表、ディベートという部分がなかなか出てこない。どのように導入を持って行けばよいか非常に難しく、我々教員もいろいろ研究している。少しずつできてきたかと思われる内容になってきているが、そこで問題になるのは、公民館でアクティブラーニングをどの世代をターゲットに行うのかということである。若い世代は考え方が柔軟であり、「なるほど、そういうことなんだ。」と、自分たちが主体的に学んで、それを中心にみんなで話題を広めていく、深めていく、そういう物なんだと、割合分かるが、一般の成人、高齢者に浸透するかどうか、心配にはなる。私の心配をよそに、どんどん発展していくこともあるかもしれない。アクティブラーニングの価値観というか、達成された時にこういう形になるということはどう表現していくかということも必要になってくるかと思う。非常に良いことだと思っており、ターゲットにする世代をうまく一緒にするのはなかなか難しいと思うので、別々に考えてもよいかと思う。

(加藤委員)

今は退職しているが、保育園に勤務していた。若宮保育園、垣生保育園にも勤務していた。

公民館の方には大変お世話になり、若宮公民館、垣生公民館ともお年寄りが非常に元気で、行事があれば子どもの数より多い位の方にお越しいただき、お手伝いいただいた。垣生公民館では、栗拾いの際には一緒に垣生山に登っていただいた。「地域の子ども」という感じて、皆さん大事にしてくださった。自分が住んでいる金子地域では、ラブ金子や夕涼み会等の行事に公民館中心に色々な組織を構成し取り込んでいるが、子どものことを大事にしてくださっていると思っている。子どもの時にお世話になっていれば、「こんなにお世話になっているのであれば、自分も何かできることをしないといけない。」と、そういう気持ちになってくれればよいと思う。

成人式では新成人が喜んでくれるような企画、参加してくれるような企画を考えればよい。中に入ってくれないと嘆くよりも、入ってくれる企画、「これなら楽しそうだから、参加したいな。」と思うような企画を考えないといけないと思う。

(渡邊大輔委員)

47ページの今後の目指すべき方向性について、国の方針概要ということで、地域とのつながり、学びの機会等、全体的に網羅されている内容と思う。目的という所が大きいと思う。今後、具体性というところで、どういった形で落とし込んで行くのか、人員の体制の問題もあるし、予算が必要な所も出て来るかと思う。例えば、最近の情報技術というところでは言われているように、ターゲットをどこに置くのか、高齢者向けには少しそぐわないのではないか。では、ターゲットは若者向けの内容にするのか。それを逆に、どうすれば来ていただけるような機会を作れるのか。こういう電子機器等を公民館に導入し、そこから何か教室的な何かを開くのかなど、これから具体的な課題がどんどん出て来ると思われる。今はそこまでを議論するところではないと思うが、今後に向けて方向性を基に各課題に落とし込んで解決していくというようなことが重要になって来ると思う。

(日野副議長)

私は公民館への思いはかなり強いと思う。

多喜浜公民館は運営審議会委員は15名であるが、今から約30年前、ゴルフ場の問題があった。その際、公民館長が旗振りし、賛成、反対だと議論した。それをはっきりさせるために、公民館をどうするべきか、ということを真剣に考え始めた。運審委員だけでは絶対に解決できないということで、当時は相談員、今は運営委員という名称になっているが、その方々が36名おり、小中学校の校長先生やPTA、消防団等、あらゆる団体を網羅している。毎月、会を開催し、全員出席いただいている。多喜浜校区は行事も多く、公民館の職員に迷惑を掛けているのではないかと。公民館職員の勤務は週29時間と決まっているが、もっとしているのではないかと。また、毎月会議を開催しているので、皆さんが苦勞されているような人集めでは、当校区は困らない。連絡をすれば100名がすぐに寄れるような体制を、約30年前に作っている。地域の皆さんが寄って論議し、全ての事業を行っている。9月からはコミュニティ・スクールも立ち上げた。地域の方々がとても協力してくれる。だから公民館は絶対に必要である。公民館は地域の核であると思っている。公民館に寄っていただいて、多喜浜中のものごとを網羅している。運営会というのは、現在、新居浜市全体の論議としている。会議では、行政は今こんなことを考えている、こういうことをしたらどうですかという意見が出る。各団体からの意見も出る。そのような中で、地域で解決しようと皆さんの良い知恵が出て、解決できている。館長は一日出ていることもある。職員にも無理していただいている。地域がするので、職員も放っておくことはできない。小学校

には塩田施設、塩の学習館もある。陶芸も行っている。学校内にあり、学校と地域がつながらないと、何もかもできない。防災訓練を実施すれば、400人出てくれる。子どもと保護者で200人出てくれる。子どものことであれば地域の大人も出てくれる。そのくらいやっていただいている。人集めには苦労しないが、館長や職員には気の毒であるといつも考えている。今からの公民館は、地域の核になり、地域の拠点であることを認識していただき、職員に時間的な余剰をもう少し持っていただかないと、公民館活動、地域活動はできないのではないかと思います。これからは防災機能についていろいろ言われており、ぜひその辺りを教育委員会に考えていただきたい。そのためには予算も必要と考える。もうボランティア、ボランティアという時代は過ぎたのではないか。要るものは出して、ボランティアしていただく、有償ボランティアの時代になって来ていると思う。でないと人集めはできないのではないか。これからは教育委員会にそういうことを考えていただければありがたい。

(秦議長)

全国の会長、愛媛県の会長、新居浜市の会長を50年ほど、ボランティア一筋にやってきているが、三つのアンケートを1年ごとに取っている。良かったこと、悪かったこと これからどうしたい、この三つを現在約700名の会員が集まり、毎月勉強会を開催し地域に流しているが、全ての方が一歩前進するにはどうしたらよいか、できるだけ反対の方の意見を少しずつ取り入れるということをしながら活動している。それぞれ役割を持っており、ターゲットも異なるが、1枚の紙のように、賛成があれば必ず反対もあり、反対をどのようにして賛成の方に導くかということで50年ほどボランティアを行っている。委員の皆さんは、それぞれ苦心なさっていらっしゃると思うが、新居浜市の皆さんはソーシャルキャピタル、官民一体となって、どのように進めていけばよいかという考えで、地域を笑顔輝く、住みたい、住み続けたい新居浜市に持って行ってくださっていると思うので、よろしく願いしたい。

(事務局)

本日貴重なご意見をいただいたが、それぞれのキーワードを拾い上げながら、次の答申（案）の叩き台を作成したい。それを皆さんにご覧いただき、最終（案）に向けて、次回ご議論いただければと考えており、どうかよろしく願いしたい。

(秦議長)

長時間にわたり貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。お気をつけてお帰りください。